

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 仙台市サンホーム

公表日 令和8年 3月 2日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	13	4	・親子通園であることが考慮に入っていない設計と感じる。 ・7～8名の子ども、保護者、スタッフが入るとやや狭いと感じる。 ・定員10名に対しては部屋が狭いと思う。単独クラスでは丁度良い。 ・パーテーションを手作りし、スペースの工夫をしている。 ・部屋数が少ないので、在園児・卒園児・地域保護者からの相談と外部（関係機関・ボランティアなど）からの来園が同時に受けられないことがある。	・1クラスあたりの人数調整を行うとともに、親子が安心して過ごせるスペースを作るよう工夫が必要である。空間と部屋数は変えられないことから、その都合空いている部屋と時間を全体で確認・共有することで限られたスペースを有効に活用できるようにする。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14	3	・国の基準は満たしているが、その基準が適切でないと感じる。 ・適切になるようにスタッフ数を増減して調整している。 ・クラスの特徴によって違いがある。こどものフォローと保護者のフォローが必要な場合に少ないと感じる。	・こども支援はもちろん、保護者支援も適切に行えるようフリーのスタッフを必要に応じて配置していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	16	1	・保育室の床がタイル素材の場所があり、（座ると）痛くて冷たい。	・滑りにくいマットやカーペットなどを使用を検討する。また、こどもにとってわかりやすく構造化することは心がけているが、まだ十分ではないため、引き続き適切な環境調整を行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16	1	・室内での運動スペースをもっと広く使いたい。	・空いている部屋や廊下などを使用して運動ができるスペースを確保したり、空間を仕切るなどの工夫をする。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	17	0	限られた部屋数のため、しきりを使うなどの工夫をしている	・引き続き、パーテーションを使用しながら、個別に配慮した環境の工夫を行う。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	15	2	・広く職員は参画しているが、スピード感がゆっくりと感じる。	・「気づきシート」を活用し、定期的に業務改善のための話し合いを設定していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17	0		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	17	0	・出勤後の仕事を分担したことで、早めに出発するようになり打ち合わせも早くなった。	・引き続き、業務改善のための話し合いの中で、具体的な取り組みを実践していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	16	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	17	0	・研修等が多く、日々の業務に支障が出ている印象。	・一人に研修が集中しないよう、計画的に外部研修と内部研修設定・実施する。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	17	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	17	0		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	16	1	・一人ひとりならいに沿って基本的なアセスメントを実施するため、整理シートを活用して確認した。 ・標準化されたフォーマルアセスメントはなかなか実施できていない。・ツールを使用したフォーマルなアセスメントは必要と感じる。	・センター共通アセスメントシートの活用、よりフォーマルに近いアセスメント方法を取り入れながら、個々の育ちを確認していく
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	17	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	17	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	17	0		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	17	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	17	0	・毎回できているわけではないがなるべく実施している。	・療育後の時間の使い方を工夫し、しっかりと振り返りができるように改善する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	17	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	17	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	17	0	・移行支援は実施している。 ・仙台市では企業型保育園との併行利用は認めているため、連携を図っている。	・併行して違う企業型保育園との連携（訪問と情報共有）や次の連絡先への移行支援（引き継ぎ）を通し、一貫した支援の提供ができるようにしている。今後はより幅広い視野での移行支援と、さらなるインクルージョン推進の取り組みが課題となる。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	16	0 未回答 1	今年度は就学児童がいなかったが、在籍している年は移行支援を行っている。	・必要に応じて、小学校への移行支援もしっかり行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	17	0	・地域相談員連絡会に出席/通所型児童発達支援事業所研修に携わっている。	・仙台市内の児童発達支援センターとは、会議や研修を通し定期的に交流し、随時連携が図れるようにしている。また、児童発達支援事業所（主に泉区を中心とした）とは、勉強会や療育見学日への案内と参加受け入れを積極的に行い、連携しながら地域全体の質の向上に努めている。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	17	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	15	1 未回答 1	・泉区自立支援協議会、泉区子育てネットワークに参加している。 ・把握していない。	・泉区自立支援協議会や泉区子育てネットワークでは、発達のみならず抱えた子どもを取り巻く環境や、子育ての困難さを抱えた保護者を支える仕組みについて共有することを大切にしている。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	17	0		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	17	0		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	17	0			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16	0 未回答 1	・把握していない。	・運営規程については、事前審判の場下に貼り出し用いている。また、支援プログラムや利用者負担についても、契約時に丁寧に説明するようにしている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	17	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	17	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	17	0		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	15	2	・ブレイクタイムを設けて保護者同士の交流の場を確保している/父母の会はないが、ブレイクタイムで交流の機会がある。/保護者はブレイクタイムで交流を深めている。 ・複数のきょうだいがいる時には、スタッフの見守りの中交流できるようにしている/長期休み期間には、同伴で登園するきょうだい児を別室で預かり、あそびや交流の機会を設けている。/きょうだい同士での交流は日常では行っていない。	・親の会はないが、午後のブレイクタイムや懇談会などを通して、保護者同士の交流が図れる機会をもっている。また、土曜日の参観日を設けることで、普段なかなか療育に参加できない父親同士の交流も図った。また、きょうだい児については、長期休みなどにスタッフがお預かりし別室での活動提供を行うことで、丁寧なきょうだい支援ときょうだい同士の交流が図れた。引き続き、積極的に交流の場を設定していくためにも、職員体制を整えることが課題。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	17	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	16	1	・HP/SNS等のことは把握していない。	・毎月のサンホームだよりに加え、定期発行の保健だよりや、法人の機関誌にて活動内容や行事の案内、その他のトピックスなどを発信している。また、法人のホームページでは施設の概要と自己評価の結果を毎年開示している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	17	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	17	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	1	・サンサンかっきーランド（児童館との共催の夏まつり）、保護者勉強会の地域参加枠を設けるなどしている。 ・隣接している児童館の職員との協業は少しずつ増えている。	・引き続き、さまざまなイベント企画を通して、地域に開かれた事業運営を目指したい。
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	17	0	
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	17	0		
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	17	0		
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	17	0		
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	17	0		
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	17	0	・おたより作成し、配布している。	・引き続き、保健だよりなどを活用し、安全計画に基づく取組内容を発信していく。
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	17	0	・その都度振り返りの中で共有している。	・ヒヤリハットが認められた際には、速やかに対策を講じるとともに、職員全体で共有し、報告書にまとめるとともに、再発防止に努める。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	17	0	・スペシャルラーニング等を活用して研修を行っている。	・引き続き、スペシャルラーニング（動画研修）を活用するとともに、実際の療育現場で想定されるケースを職員全体で共有・検討していく。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	17	0			